資料３

2022（令和４）年度（速報版）第２期知床半島ヒグマ管理計画目標に関する状況（6 月末時点）

○第２期知床半島ヒグマ管理計画の目標の達成状況

計画期間（2022（R4）～2027（R9）年度）

本計画の目標	目標値	結果							主な対策
		2021（R3）	2022(R4)	2022(R5)	2022(R6)	2022(R7)	2022(R8)	2022(R9)	※アクションプラン案（資料4-1，4-2）参照。確定次第、記載予定。
①計画期間内における、斜里町、羅臼町及び標津町内でのメスヒグマの人為的な死亡総数の上限目安を108頭以下とする。（注４、５）	**18頭以下** （単年目安）	11頭	9頭						
	108頭以下 （累計）								
②計画期間内における、ヒグマによる人身事故（利用者等）をゼロとする。（注６）	**0件**	0件	0件						
	（累計）								
③利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を現状（第１期計画期間の年平均値。以下同じ。）以下に抑制する。（注７）	**19件以下** （単年目安）	49件	4件						
	114件以下 （累計）								
④地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を現状以下に抑制する。	**11件以下** （単年目安）	20件	2件						
	66件以下 （累計）								
⑤市街地（ゾーン４）への出没件数を現状以下に抑制する。	**95件以下** （単年目安）	121件	62件						
	570件以下 （累計）								
⑥斜里町における農業被害面積を現状から５%削減する。（注８、９）	**536a以下** （６年平均）	365a	（年度末集計）						
⑦漁業活動に関係する危険事例の発生件数を現状以下に抑制する。	**2～3件以下** （単年目安）	0件	0件						
	16件以下 （累計）								
⑧ヒグマによる人身事故を引き起こさないための知識、ヒグマに負の影響を与えずにふるまうための知識を地域住民や利用者に現状以上に浸透させる。	－	－	－	－	－	－	－	－	

（注４）当該地域におけるヒグマの個体数に係る新たな知見が示されるなど状況に変化があった際には、その結果を踏まえ科学的な見地から人為的な死亡総数の目安について再考する。

（注５）本計画で定めたメスヒグマの人為的な死亡総数の目安は、北海道ヒグマ管理計画において定められている、道東・宗谷地域東部（阿寒白糠以東）の「計画期間総メス捕獲上限数」に含まれる。

（注６）危険な場面に立ち会うことの多い捕獲従事者は、地域住民や利用者とは性質が異なるため、捕獲従事者の人身事故は別途集計を行う。

（注７）「９．管理の方策」において問題行動と位置付ける行為。

（注８）本目標は、斜里町鳥獣被害防止計画の目標（令和5年度に令和2年度比5%削減）を参照したもの。

（注９）標津町や羅臼町においてもデントコーンや牧草ロール等に農業被害が発生しているが、被害の発生頻度や被害額は斜里町と比較して少なく、被害として計上する状況には至っておらず、鳥獣被害防止計画においても農業被害に関する目標を明確に設定していない。
したがって、目標には掲げずに被害状況を注視することとする。

知床半島ヒグマ管理計画目標である①～⑧のうち、数値目標が設定されていない⑧以外について、2022（令和 4）年度 4 月から 6 月の期間における状況（速報版）を以下に記した。

目標①　計画期間内における、斜里町、羅臼町および標津町でのメスヒグマの人為的な死亡総数の上限目安を 108 頭以下とする。

・3 町におけるヒグマの人為的死亡個体の内訳は、メスが 9 頭（斜里町 1 頭、羅臼町 7 頭、標津町 1 頭）、オスが 13 頭（斜里町 6 頭、羅臼町 6 頭、標津町 1 頭）であった（表 1）。なお、メスヒグマの人為死亡位置は、図 1 に示す。

・人為死亡個体の死亡直前の行動段階を表 2 に示す。行動段階 1 が最も多く、次いで行動段階 2 であった。

・羅臼町で行動段階 3 の個体が捕殺された。当該ヒグマは車両にすり寄る、漁業用のテントに近づく等の問題行動をとっていた。

表 1．2022 年 4 月～6 月までのヒグマ人為的死亡個体の内訳（年齢別・町別・性別）

年齢/町・性別	メス			オス		
	斜里町	羅臼町	標津町	斜里町	羅臼町	標津町
0歳	0	0	0	0	0	0
1歳	0	2	0	1	0	0
2歳	0	3	0	0	1	0
3歳以上	1	2	1	5	5	1
小計	1	7	1	6	6	1
合計	**9**			13		

表 2．2022 年 4 月～6 月までの人為死亡個体の死亡直前の行動段階

行動段階		斜里町	羅臼町	標津町	計
3	人へのつきまとい/攻撃	0	1(1)	0	1(1)
2	非農作物（生ゴミ・干し魚等）	0	0	0	0
2	農作物加害	5(0)	0	0	5(0)
1+	過度人なれ	1(0)	0	0	1(0)
1	人なれ	1(1)	12(6)	1(0)	14(7)
0	警戒心強い	0	0	0	0
判定不能	わな錯誤捕獲など	0	0	1(1)	1(1)
計		7(1)	13(7)	2(1)	22(9)

※判定不能の 1 件は人材育成捕獲によるもの

※( )内はメス頭数を示す

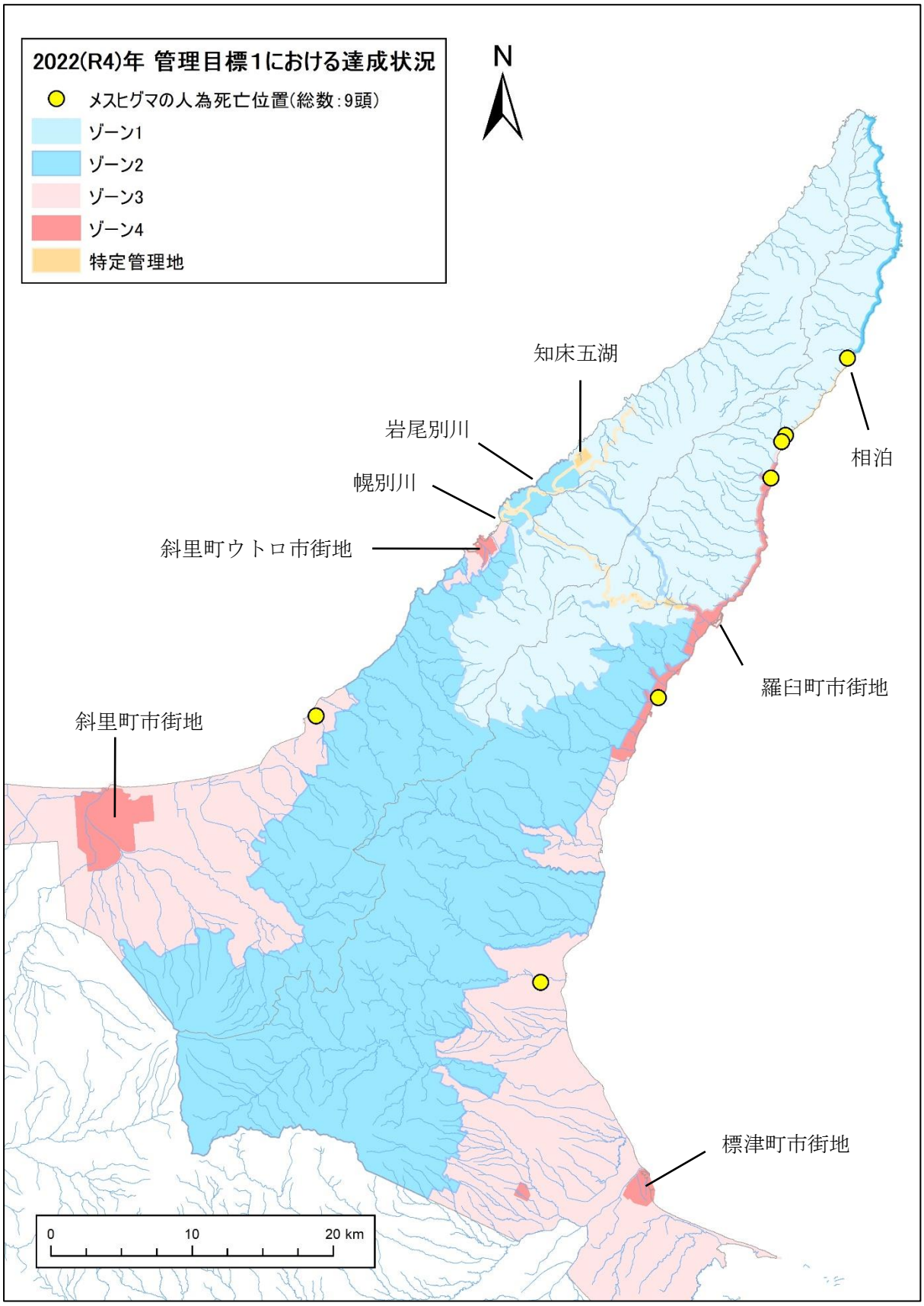

図 1．2022(R4)年 4～6 月までのメスヒグマの人為死亡位置

目標②　計画期間内における、ヒグマによる人身事故（利用者等）をゼロとする。

・ヒグマによる人身事故は発生しなかった。

目標③　利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を現状以下（累計 96 件）に抑制する。

・利用者の問題行動に起因する危険事例は斜里町で 4 件発生した（表 3、図 2）。羅臼町および標津町では発生しなかった。

表 3. 2022 年 4 月から 6 月までの期間に発生した利用者の問題行動に起因する危険事例の詳細

No.	日付・場所	状況概要
1	5 月 4 日 斜里町	町道岩尾別温泉道路に出没した 1 歳 2 頭連れ親子グマを 15 名以上の利用者が 10m離れた場所から撮影していた。
2	5 月 5 日 斜里町	道道知床公園線の岩尾別川付近で、1 歳 2 頭連れ親子グマから 30m 離れた場所で降車し、撮影している利用者がいた。交通障害も発生。対策員が注意喚起を行うが、聞き入れてもらえず、事態の収束に長時間かかった。
3	5 月 6 日 斜里町	町道岩尾別温泉道路で 1 歳 2 頭連れ親子グマから 10m 離れた場所で降車して撮影する利用者 8 名がいた。
4	5 月 14 日 斜里町	道道知床公園線の知床五湖付近で、1 歳 2 頭連れ親子グマを撮影するため、降車して至近距離で撮影する利用者がいた。

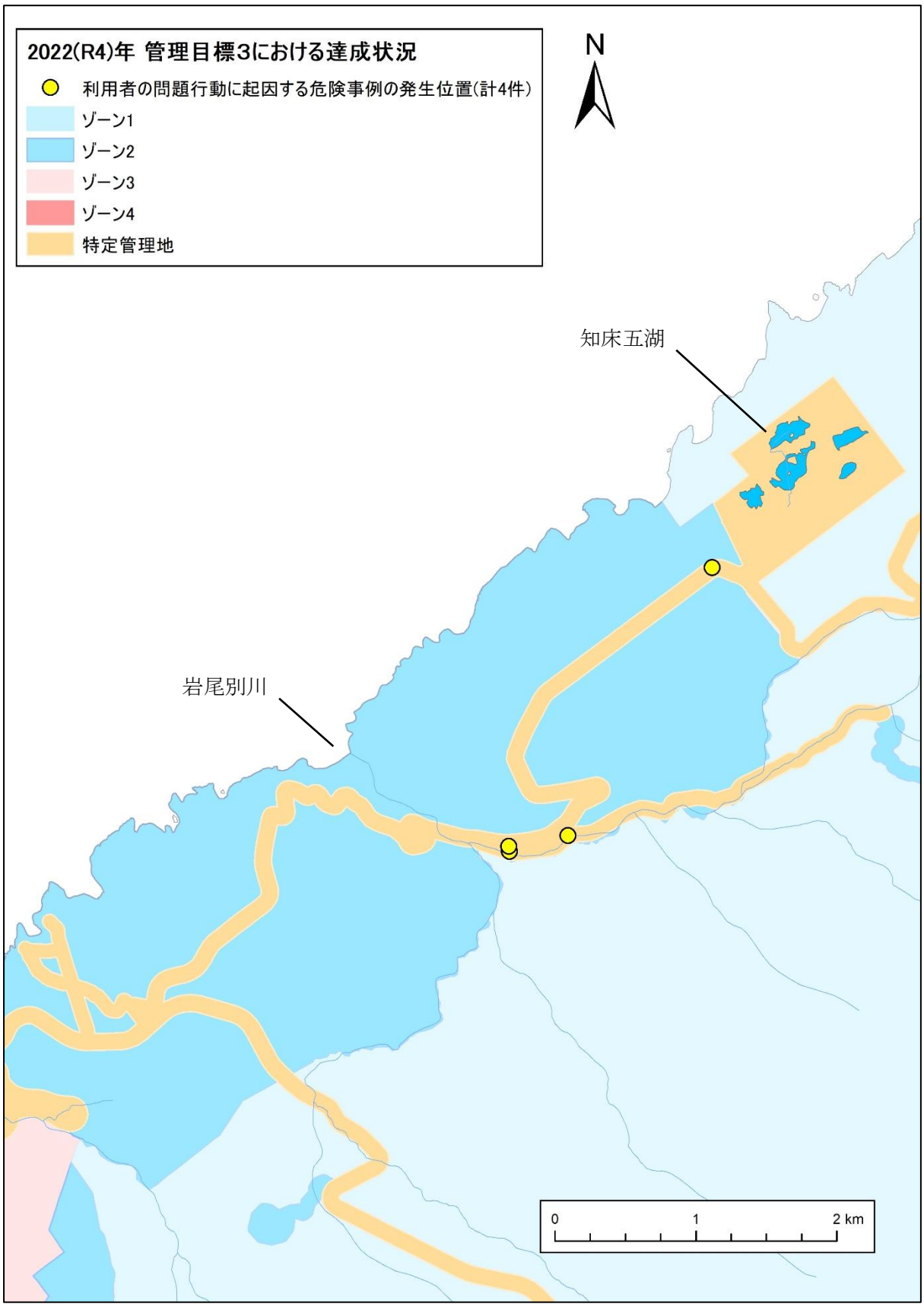

図 2. 2022(R4)年 4～6 月までの利用者の問題行動に起因する危険事例の発生位置

目標④　地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を現状以下（累計 57 件）に抑制する。

・地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例は斜里町で 2 件発生した（表 4、図 3)。羅臼町および標津町では発生しなかった。

表 4. 2022 年 4 月から 6 月までの期間に発生した地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の詳細

No.	日付・場所	状況概要
1	5 月 30 日 斜里町	幌別川河口付近に置かれたフレコンパックの中にある食品関係ゴミを単独メス成獣サイズのヒグマがあさっていた。
2	6 月 3 日 斜里町	幌別川河口付近に置かれたフレコンパックの中にある食品関係ゴミを単独メス成獣サイズのヒグマが再びあさっていた。

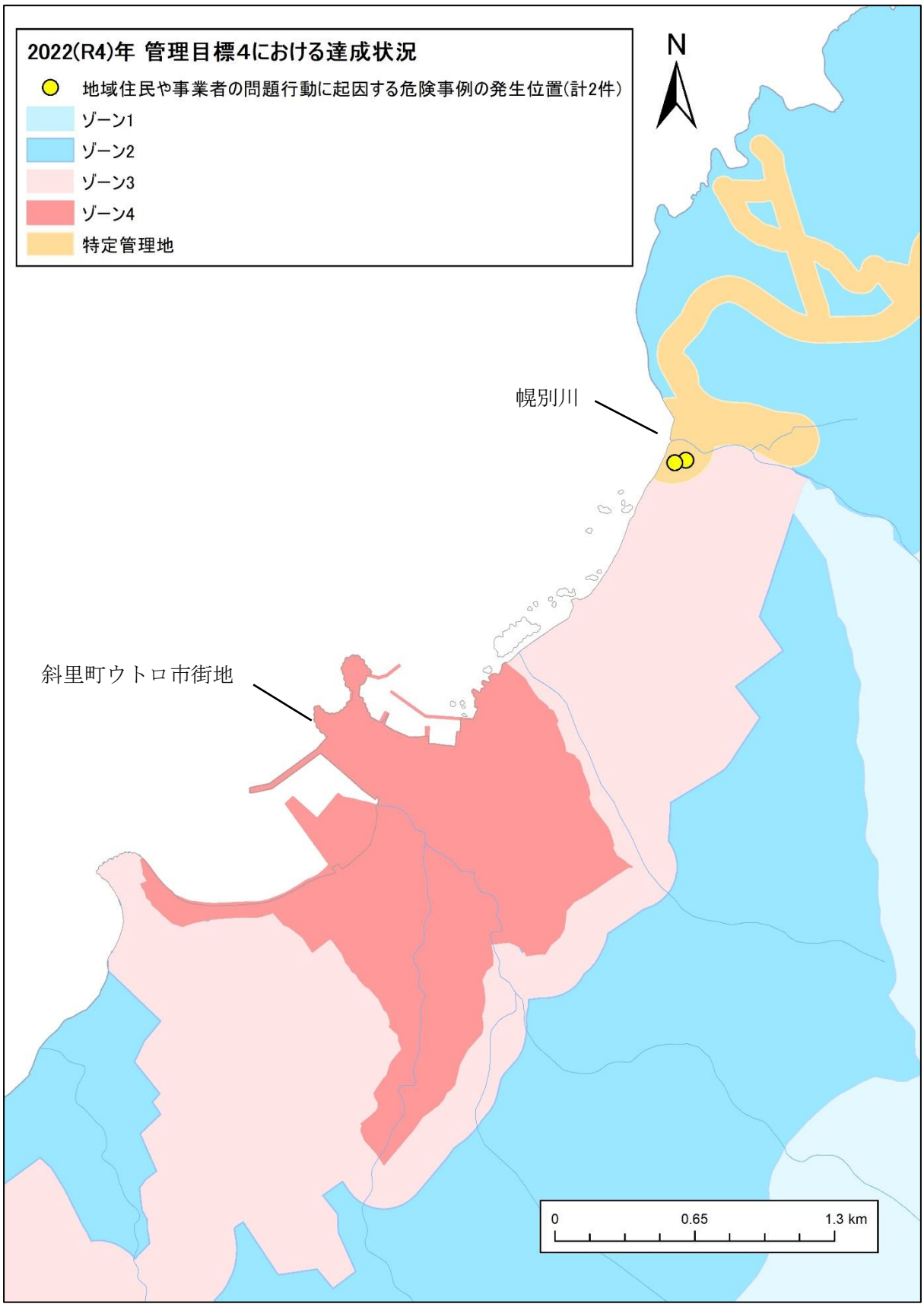

図 3. 2022(R4)年 4～6 月までの地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生位置

目標⑤　市街地（ゾーン 4）への出没件数を現状以下（累計 475 件）に抑制する。

・市街地（ゾーン 4）へのヒグマの出没件数は 62 件（斜里町 2 件、羅臼町 60 件）。標津町では発生しなかった。市街地（ゾーン 4）への出没位置を図 4～6 に示す。

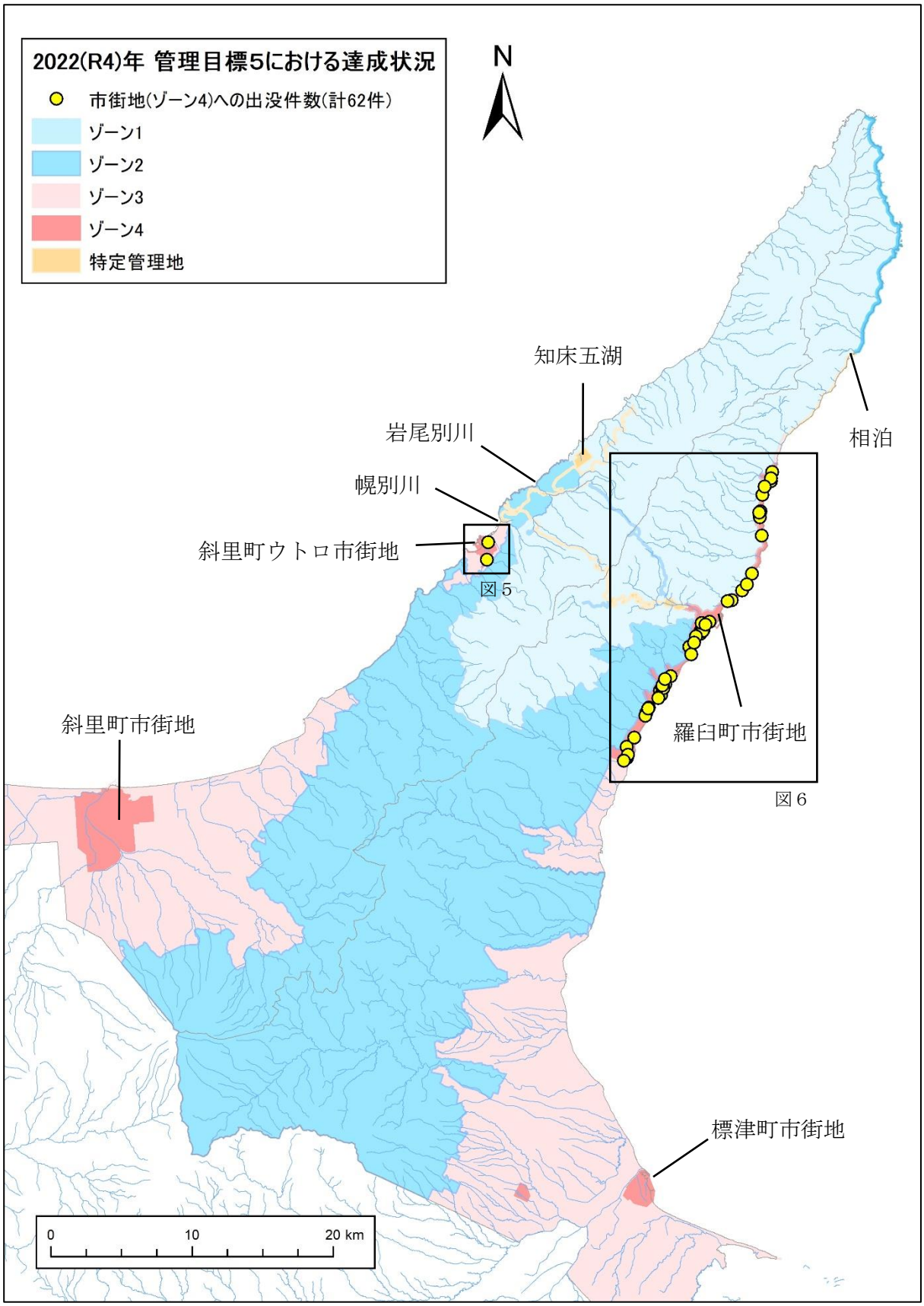

図 4. 2022(R4)年 4～6 月までの市街地（ゾーン 4）のヒグマ出没位置

図 5. 2022(R4)年 4～6 月までの市街地（ゾーン 4）への出没位置（ウトロ市街地拡大図）

図 6. 2022(R4)年 4～6 月までの市街地（ゾーン 4）への出没位置（羅臼町市街地拡大図）

目標⑥　斜里町における被害面積を現状（536a（5 年平均））から 5%削減する。
・ビートや小麦の被害情報あり。集計は年度末。

目標⑦　漁業活動（特に羅臼側の昆布番屋等）に関係する危険事例の発生件数を現状以下（13 件）に抑制する。
・漁業活動に関係する危険事例は発生しなかった。